

多文化共生施策（評価指標）の進捗状況について

評価指標 1 県民意識調査「外国人も活躍できる地域づくり」に対して「重視する」と回答している割合

【指標説明】県が毎年実施している「県民意識調査（選挙人名簿から県内在住の20歳以上の男女4,000人を無作為抽出）」で、「宮城の将来ビジョン」に掲げる33の取組のうち「26外国人も活躍できる地域づくり」について、「重要」、「やや重要」と回答した人の割合。

【目標設定】H20：44.0% ⇒ H25：60.0%

＜考え方＞

「宮城の将来ビジョン」に掲げる33の取組のうち中分類「安心と活力に満ちた地域社会づくり」に属する他の13の取組の平均重視割合は77.5%であり、当該取組の44.0%からその中間値まで引き上げることを目標に設定

【進捗状況】H21：45.6%

＜結果＞

「安心と活力に満ちた地域社会づくり」に属する他の13の取組の平均重視割合が76.6%に低下した（▲0.9ポイント）中、当該取組の重視割合はわずか（+1.6ポイント）ではあるが着実に上昇

評価指標 2 多言語による生活情報の提供実施市町村数

【指標説明】生活に関する情報を日本語以外の言語で提供している県内の市町村の数

【目標設定】H20：5市町村 ⇒ H25：10市町村

＜考え方＞

最終的には全市町村における実施が望ましいが、当面は倍増を目標に設定

【進捗状況】H21：7市町村

＜結果＞

これまでの仙台市、石巻市、気仙沼市、名取市、大和町に加え、今年度、新たに登米市でホームページの多言語化（英語・中国語・韓国語）を、美里町で「美里町に暮らす外国人のためのハンドブック（英語）」の作成・配布を開始

評価指標3 日本語講座開設数

【指標説明】 県内で開設されている日本語講座や日本語教室の数

【目標設定】 H20：25講座 ⇒ H25：30講座

＜考え方＞

それまで8市5町で日本語講座が開設されていたが、人口の多い市部には最低1講座は必要と考えられることから、まだ開設されていない5市における開設を目標に設定

【進捗状況】 H21：27講座

＜結果＞

これまでの仙台市（13講座）、石巻市、気仙沼市、名取市、角田市、岩沼市、登米市、大崎市、川崎町、亘理町、松島町、美里町、南三陸町（各1講座）に加え、今年度、新たに栗原市、利府町（各1講座）において開設

評価指標4 外国人相談対応体制を整備している市町村数

【指標説明】 外国人からの外国語相談に対応できる体制を整備している県内の市町村の数

【目標設定】 H20：4市町村 ⇒ H25：8市町村

＜考え方＞

それまでの4市町村から倍増を目標に設定

【進捗状況】 H21：4市町村

＜結果＞

これまでの仙台市、石巻市、気仙沼市、川崎町に加え、新たに外国人相談対応体制を整備した市町村はない。

評価指標5 永住者の求職者に対する就職率

【指標説明】外国人永住者（一般に日本語能力が高い）からの県内ハローワークにおける「新規求職受理件数」に対する「就職件数」の割合

【目標設定】H20：26.8% ⇒ H25：43.0%

<考え方>

H20 期初（H19 実績）から、それまでの過去5年間の伸び率（+8%）を倍増させた率（+16%）を加算し目標に設定

【進捗状況】H21：17.2%

<結果>

H21 期初（H20 実績）の当該就職率は、前年度に比べ大きく低下（▲9.6%）。リーマンショックに端を発した世界同時不況による雇用情勢全般の悪化がその要因と考えられる。

（参考：平成21年9月における宮城県内の有効求人倍率：0.39%）

※全国平均0.43%